

FED の新議長と韓国での為替リスク

今月の FOMC で 0.25% の利下げは確実で、関心は FOMC メンバーたちの経済予測や議長パウエルの会見に移っている。だがさらに言えばパウエルの後任の議長人事に移っている。

財務長官のベッセントは候補を 4 人に絞り、今週からトランプ大統領と共に最後の面接を開始する。結果は来月の早い時期に発表予定だ。国家経済会議議長ハセット、元 FED 理事ウォーシュ、FED 理事ウアラー、同バウマン、ブラックロックのリーダーの 5 人のうち 4 人が候補と言われている。賭けサイトでは依然としてハセットが有力のようだ。

問題は大統領に最も近いハセットが選ばれた場合、FED の独立性の問題が再燃することだ。ハセットが有力視された時、市場はドル売り、長期債売り、イールドカーブのステープニング化で反応した。このところ市場は様子見の感じだが、実際に決定されると新たな動きが出るだろう。

ハセットは、インフレ率や債券市場の状況に関わらず、大統領の主張である利下げを繰り返すと見られている。そうなれば長期金利は急上昇し、債券市場が不安定になるリスクが高まる。そこで債券業界の一部は財務省にハセットの議長就任のリスクを訴えた。

こうした点を考慮したのか、ハセットは最近、政策決定はデータ次第だと発言もしている。まるでパウエルのようだ。また議長に就任しても短期間で交代するとの意思を財務長官に伝えたとも言われる。

いずれにしても年末から年始にかけて議長人事が市場の関心の的になる。

ところで韓国の中央銀行は先月下旬に政策金利を 2.5% で据え置いた。その際の総裁の記者会見で、韓国の投資家、特に若い個人投資家に対して為替リスクやボラティリティーの理解や管理を徹底するよう注意した。韓国投資家の米国株購入は既に前年の 3 倍に膨らんでいて、それがウォン安の一因にもなっているとの指摘だ。

韓国も日本同様、トランプ関税交渉で 3500 億ドルの対米投資を約束させられた。日本より外貨準備高が小さい韓国はこの額の投資を一度にはできないし、分割投資と同時に外貨準備の補填も進めなくてはならない。これはウォン安要因でもあるので、韓国の投資家が米国資産を買い、ウォンショートにするのは合理的だ。

中銀総裁にとってはウォン安を止めるために利上げはしたくない。それに最近 BOE や IMF.BIS などの国際機関も金融市場、とりわけ米国株式市場のバブルを指摘、注意喚起を促している。こうしたことでも韓國中銀総裁の若い投資家への注意に繋がったのだろう。日本もあまり違いはない。